

INPEX の生物多様性保全の取組みについて

(INPEX) ○川口奈月^{かわぐちなつき}・山本汐音^{やまもとしおね}・野尻 渉^{のじり わたる}・佐々木直人^{ささき なおと}

1. はじめに

当社は、2012年にISO26000を参考に、ステークホルダーにとっても重要度の大きい5つのテーマをCSR重点テーマとして特定した。2015年には、主要プロジェクトの進捗に伴う事業活動が与える影響事象やステークホルダーの関心事項の変化などを踏まえてテーマの見直しを行い、6つのCSR重点テーマ(ガバナンス、コンプライアンス、HSE、地域社会、気候変動対応、従業員)を再設定した。さらに、持続可能な開発目標(SDGs)の観点を取り込み、“生物多様性の保全”など優先的に行うべきアクションを「重要課題」として特定した。2018年には国内外の事業における全社の環境分野の取り組みを統一感のあるものとし、かつそれらを可視化できるように、「コーポレート環境管理計画」を作成し、その中で“生物多様性の保全”を含む5つの環境目標を設定し、継続的に改善が成されるよう取り組んでいる。

2. 生物多様性の保全への当社の取組み

石油及び天然ガスの探鉱、開発、生産活動等のすべての事業活動は、生物多様性や地域コミュニティが依存する自然環境及び社会環境に影響を与える可能性がある。潜在・実在の影響、関係性及びその結果として生じるリスクを管理することの必要性は重要な要因であり、事業のライフサイクル全体にわたって適切かつ一般的に検討する必要がある。

当社の生物多様性の保全へ取り組みは、国内外を問わず新規事業と既存事業と異なるアプローチで効果的に対応している。新規に開発する事業においては、事業活動が生物多様性に及ぼす影響を、環境・社会影響評価(ESIA: Environment and Social Impact Assessment)を通じて予測・評価し、ミチゲーション・ヒエラルキーに基づき、回避、低減、代償の対策を検討し、生物多様性への「負の影響」を低減するための対応策を策定し実行している。一方、すでに長い年月にわたり事業を展開している既存事業では、環境に対して負の影響を排除/低減した操業を続けてきており、生物多様

性に関する問題が生じていないと考えられるため、生物多様性に「正の影響」を創出するような取り組みを検討し実行している。地域貢献活動やボランティア活動といった地域に密着した活動を中心に展開し、着実に継続してきた。

3. 生物多様性の保全のさらなる推進に向けて

当社では、これまでも既にさまざまな取り組みを、コーポレート及び国内外の各オペレータープロジェクトにおいてそれぞれ計画・実施してきた。特に、オペレータープロジェクトでは、事業場の立地環境や事業活動の状況を考慮した取り組みを計画・実施している。しかし、一方で、コーポレートを中心とした全社的な生物多様性の保全に関する方針やコミットメントの下で、全社連携で取り組みを推進していく体制はまだ十分には整備されていないと考えており、現在そのコーポレート機能構築に向けて検討をすすめている。

また、当社は今年2月にインドネシアの Rimba Raya Biodiversity Reserve REDD+プロジェクトを支援すること発表した。同プロジェクトにおいて、オランウータン保護プログラムを推進するとともに、地域住民の生活向上等を目的として森林保全活動を行っており、森林保全活動によるCO2吸収によって継続的に国際的な認証を得たカーボンクレジットを創出している。今後とも貴重な生物多様性の保全や、地域社会の生活基盤向上に貢献する優良なプロジェクトの支援を推進していく。



プロジェクト地域に生息するオランウータン

今回は、当社においてオペレータープロジェクトを実施している国内外の5つの地域において過去に取り組んでいた、あるいは現在取り組んでいる生物多様性の保全の取り組みについて紹介する。